



人と人がつなぐ 後志の未来

2月17日(土) 15:00～17:30
会場●小樽運河プラザ

山形県副知事の後藤靖子氏を講師にお招きし、「しりべしiネットシンポジウム」が小樽市運河プラザで開催されました。



●基調講演

「住んでよし」「訪れてよし」のまちづくり
～やまがた観光まちづくり塾の取り組みを通じて～
講師 山形県副知事 後藤 靖子氏

地域の魅力を掘り起こして、活動をつなげよう。

山形県は東北地方の日本海側に位置し、スキー場のある蔵王や、松尾芭蕉の俳句で有名な立石寺、銀座温泉、最上川などの観光資源を有している。また、県内は大きく4つの地域に分けられ、同じ県の中でも様々な文化がある。

私も山形へ来る前は知らなかったが、例えば、置賜という地域に1200年から500年の樹齢を誇る桜の木が9本ほど、山に囲まれたのどかな田園風景に残されており、これらの木を大事に守り育てている人がいたり、また、ニューヨークの近代美術館で展示されているバタフライチェアは山形の木工技術である天童木工の作品であるなど、掘り返してみると山形にはこういったものが多くある。東京にいと「地方の一つ」と思っていた山形に、実はこんなに多様な表情があり、いいものもあつたのだと気付いた。こうしたものをもっと外の人にも知ってもらうことで、地域の人達が元気になれるのではと思った。

そのためには、地域を表面的に捉えるだけではなく、地域の生活や文化といったものをしっかりと伝えていく、あるいは掘り起こしていくということが大事だと考えた。

また一方で、山形県に行って私が感じたことは、農業でも、もの造りでも商店街でも色々な産業をつなげることでできる力のある文化がある、という認識が山形はちょっと薄いということ。それから山形にはおもしろい人がたくさんいて様々な活動が頑張つて行われているが、隣の活動や人とつながっていないし、お互いを知らない。ここが惜しいと思った。

街をよくしていくためには、議論が必要。

私は、地域に大切なのは「人」であり、その育成の塾を立ち上げたいと考えたが、県内でいろいろな人に会って、人材は既に存在する。この山形で必要なことは交流力を高めることで、それにより自分たちが自立的に動けるようになることが大事だと考えた。また、ほかの地域と交流する

ことによって初めて自分の地域を客観視することができる。そこで、皆で知恵を共有しあって行動することで、交流力を高める「やまがた観光まちづくり塾」をはじめた。

観光とか、地域づくりはどうしてもふわふわした話が多いが、理論武装が必要な部分もある。景観や街のたたずまいの保全にはやはり法規制や開発規制などについて考える必要もあるので、そういうものをしっかりと知っていく場にもしたいと思った。

塾の参加者が議論をする際、この街はこういうところがよかったなどお世辞の言い合いになり、ストレートにこういうところはおかしいとは言わないことが多いが、それでは街を良くしていくことにつながらない。もっと真剣に議論しあい、その中で信頼関係を築き上げて、でも人の言いなりになるのではなく、本物を見極める力をつけていく。地域の人が議論する「くせ」を身に付け、本物の知恵と行動力をつけていく場になるといいと考えた。そうすることで、行動力があり地域を変えていく「サムライ」が育っていくのではないかと思う。

人とつながる、外と繋がるという交流力を大切に。

地域の魅力とは何かを考えると、自分の地域を知り、自分達がどういう生き様をしていくのかということが基本であり、結局そのことが外部からこられた方にも心ひかれることにつながるのではないかと思う。何か取り繕うとか、何か新しいものを作っていくということばかりではなく、地域にあるものをしっかりと大切に育てていくことが重要であり、そのためには自分たちだけで閉鎖的に生きていくのではなく、人とつながる、外とつながるという交流力を大切にしていくということが基本になると思う。

財政が厳しい中で行政ができることは何かを考えると、市民の皆さんが街をどのようにしたいのかを考えていける場をつくり、皆さんがやりたいことをどうお手伝いができるのかを考えていくことも、これからの私たちの仕事のあり方かと思う。



●パネルディスカッション

「人と人がつなぐ後志の未来」

パネリスト

後藤 靖子氏 [山形県副知事]

山口 保氏 [小樽雪あかりの路実行委員会副実行委員長・小樽市議]

澁谷 明都氏 [コミュニケーションコーディネーター・通訳・翻訳]

大川 富雄氏 [NPO法人 WAOニセコ羊蹄再発見の会]

コーディネータ

木下 裕三氏 [しりべしシステム事業運営部会副部長]

後志の最前線で人と地域をつないでいる方々から実践されている内容をお聞きします。

大川—北海道にはシーニックバイウェイルートに認定されたルートが複数あるが、支笏、千歳、洞爺、ニセコルートでは、ルート内の各地で連携した活動に取り組んでいる。その中で小樽と同じようなキャンドルのイベントを、支笏、洞爺、ニセコの3団体でルートをつなぐ明かりをつければ面白いのではないかと始めた。去年は企画募集や地域の活動から呼びかけからはじめたので苦労したが、今年はより効率的に実施できそうなので、今後小樽に続くあかりのイベントになればいいと思う。

山口—今日のテーマである人と人をつなぐというその趣旨から、「雪あかりの路」は最もふさわしいお祭りだと私たちは考えている。運河の会場、手宮線会場には、無数のろうそくの明かりが灯っている。そういう会場を歩く中で、自分の人生や過去を振り返り、失われてきた家族の関係、近所の関係、そして地域の人と人とのつながりといったものを、たった一本のろうそくの明かりでつながっていただく、思い起こしていただく、そして新たな関係を作っていただく、そういうお祭りになっていけばいいと思う。

澁谷—「Love Letter」という映画を小樽で撮影した時は、まだフィルムコミッションなど無い時代だった。「Love Letter」を観る機会があったら、一番注目して欲しいのが、撮影に協力していただいたお店や人を全て載せたエンドクレジット。映画を観てくれた人が、これはどこだろうと思って、小樽に来てくれたらいいと思う。人と人とのつながりということでは映画以外にも、「BYWAY後志」という冊子で、今回発行した上巻では「建物」を紹



介し、下巻では街の片隅にある飴屋さんや小さい市場の隣にあるてんぶら屋さんなど自分たちから宣伝することのない「人々」を紹介したいと考えている。

現場で生まれる人と人とのつながり。

大川—広域でイベントをする際に、基本的な連絡は電話とメールでできるが、やはり直接会って話すことで、人のつながりがとても深くなる。シーニックの場合、エリアが非常に広く、千歳、ニセコ、支笏で支庁や開発局、市町村等行政の管轄が分かれており、普段では横のつながりがなかなか無いが、行き来する人がいると段々お互いのテンションが上がっていく。自分たちからアクションを起こす時というのは、どんどん積極的に色々な事をやりだし、それが楽しみに変わって行くというのはすごく面白いと感じた。

山口—人と人とのつながりの中で自然に組織が生まれて活動している中で、この街が好きで私にできることは、これらの組織へのコミットメントだと感じている。雪あかりの路は火の管理に手間がかかるので大勢のボランティアスタッフに支えられているが、観光客から「寒いにご苦労さん」と言ってもらえるとスタッフも嬉しく感じるし、また、そういう姿を見た人も感動し、そういうものが人と人とのつながりを作っていくことになると思う。

後藤—「人をつなぐ」というのはきれいな言葉だが、人を巻き込むというのはすごくパワーがいることだ。それができる人が、この後志界隈にはたくさんいるというのに驚愕、感激した。人口が多い少ないに関係なく、その街独特の地域の持っている力というものがある。また、街全部が私たちの舞台なんだと思って活用すれば自分たちにとっても楽しいし、外部からの人もつなぐ楽しいツールになると思う。

住んでよし、訪れてよしの後志にするために。

木下—価値観や地域との壁を越えて結びついたり、何かを生み出したりしていくことで、そこに生き甲斐やパワーを作り出し、訪れる人もそういった地域の取り組みに魅力を感じることができると思う。

私も取り組んでいるしりべしシステム事業は、後志各市町村の人と人とのつながりを重視した官民協働の取組みであり、過去5年間の活動成果を財産に今後も活動を発展させていきたいと考えている。各地域で様々な取り組みが行われているが、そこには人と人とのつながりやそれをつなぐ仕組み、苦労も楽しみもあると思う。そのなかで、我々同士がいかに情報を交換し合って前に進めるかということが、最終的には住んでよし訪れてよしの後志作りの第一歩ではないかと思う。

2日間にわたり開催された“後志魅力展”の様子

■平成19年2月17日(土)～18日(日) (小樽雪あかりの路 2/9-2/18)

今年の“後志魅力展”は、地域の人たちの参加によるプログラム内容が充実していました。小樽運河プラザ3番庫で開催された『後志物産展』は、出店の希望者を募り、実演を含む特産品の販売を行いました。今回は、今までにない分野の方々に参加していただいたことで、地域の『匠』や農村女性グループの方同士のつながりもでき、とても喜んでもらえたようです。コロッケを出展してくださった京極町のアイファーム宮永さん。「楽しかった～」と帰って報告してくださったそうですよ。(京極町入山さん談)



ステージイベント
景品のご提供にご協力いただいた市町村の皆様。
ありがとうございました！

i ネットラジカ



鍋の準備も
楽しそう～♪



後志物産展



観光PR

★ できることから、何かやろう。 ★ SHIRIBESHI UNDER40 ★

去る3月3日(土)、研修会でも交流会でもない「集まり」が有志たちによって開催されました。

研修会に参加されたスタッフの感想や地域ヒアリングでは、担当者の方から、「もっと気軽にディスカッションをする場が欲しい」「もっと若手のパワーで何かやりたい!」といった積極的な意見が多く出されていました。そこで、「できることから何かやろう」をモットーに、真狩村の本間さんを中心に若者の会(40歳以下)を企画しました。

今年度の「セレクション事業」の中でも各地域担当者、関係者で構成する取材チームや選定委員会の必要性があげられていることから、地域担当者同士の理解・交流を深めるため、あくまでも有志というかたちで勉強会および意見交換会の参加を募ったものです。

今回の出席者は全部で8名と多くありませんでしたが、気軽に話せる間柄から、様々なアイデアも出て、有意義な時間を過ごすことができました。今後も引き続き、定期的な集まりや自発的な勉強会を積極的に行っていきたいと思えます。

懇親会で出された意見

- 「しりべしまるごと事典」だけではなく、しりべしシステムに対してのアイデアを出す場としても勉強会、集まり意見交換を行う機会は重要。定期的に行ってはどうか。
- 定期的な集まりを持ち回りで行ってはどうか。
- 取材チームの名称を検討していきたい。
- 重複している特産品(例えばジャガイモなど)の品評会を行い、高評価だった商品をネットで紹介していくなど、競争の仕組みをつくってはどうか。
- 単独市町村ではなく、後志管内の市町村が連携してイベントを実施してはどうか。
- B級イベントが面白い!どこかの街のイベントにみんなで参加しては?

■札幌の観光案内所を見学してきました。



2月1日にJR札幌駅にオープンした「食と観光」情報館は、さすが日本最大級の観光案内所。外国語対応スタッフも充実しています。



さっぽろ赤レンガカフェは現在ボランティアガイドに250名が登録されています。きめ細やかな案内マップやボランティアさんに配るニュースレターは全部手づくり。ステキです!

↓WEBサイトからも情報発信されています! ↓

「食と観光」情報館 <http://www.pref.hokkaido.lg.jp/kz/kkd/jouhoukan>
さっぽろ赤レンガカフェ <http://www.sapporocafe.com/>

事業に関わる様々な方々からの声が反映された“地域の声”をお届けします。



京極町役場 入山 世志子さん

私とiシステムの関わりができたのは、2年前。それまでの私の仕事は「保健師」。職種は違っても対象のニーズを把握し、地域のネットワークを生かすのは同じ。そう考えると「京極町」を別な視点から見る

ことができた新鮮な2年間でした。観光係としてまず感じたのは、お客様が必要としている情報に、町から発信する情報が追いついていない、ということでした。私の仕事として、町のホームページの充実はもちろんでしたが、町の取り組みだけでは限界があり、iネットを、他市町村とのネットワークがあるからこそ町の特徴をPRできる情報提供ツールと考え、できるだけ活用したいと思いました。

2年間を振り返ると、十分に情報発信ができたとは言い難く、町のPR効果があったかどうか???ですが、私自身はiネットを通じて他市町村の情報を知ることができ、「京極町」をより客観的に見ることができました。また、先輩たちにも大変お世話になりました。後任にもそのことをよ〜く伝えつつ、これからも一住民として厳しく?iネットをチェックさせていただきます(笑)。ありがとうございました。



CHECK!! The SHIRIBESHI

しりべしiシステムに関する出来事をすばやくチェック！今が旬の話題をお知らせします！！



神恵内村 新橋梁が開通！

■平成19年3月2日(金)

神恵内村の「魚谷(うおたに)大橋」・「弁財澗(べんざいま)大橋」・「祈石(いのりいし)大橋」の3つの橋が供用開始しました。アクセスが向上した

のはもちろんのこと、橋の途中には広い駐車スペースもあり、そこから素晴らしい景色が一望できます！

ユニバーサルデザインを考える情報提供の勉強会開催

■平成19年3月8日(木) 13:00~14:00

しりべしiネットにおけるウェブユニバーサルデザインの検討する勉強会で、「SEO(検索エンジン最適化)に関わる分析」で面白い報告がされましたので、ここに少しだけご紹介します。

◎参照もと(アクセスもと)の地域

<1位>札幌 <2位>小樽 <3位>函館

近郊ということから「札幌」「函館」と、後志をはさむ地域からのアクセスが多いことがわかりました。

◎参照ソース

<1位>ダレ外入力 <2位>google <3位>yahoo

調べものの際に、まず「検索エンジンで検索をかけてみる」という人が増えてきています。そういう人は、情報が詰まったポータルサイトのyahooよりシンプルなGoogleの方が好まれる傾向にあるようです。Google検索は、「そのページにどれくらいリンクが貼られているのか」ということが重視されるため、外部リンクだけでなく、ホームページ内での内部リンクも非常に意味があるんです。

◎検索されたキーワード

<1位>しりべし <2位>しりべしiネット <3位>神仙沼
<4位>ルスツ <5位>旭ヶ丘公園 倶知安 <6位>檜樫

検索したキーワードから「しりべしiネット」にアクセスが多かったものの順位です。7位に「後志」ですが、「しりべし」と入力する人の方が多いのですね！

どんなキーワードが爆発的に人気になるかわからないところが面白い！

ふゆみち情報の発信実験が終了しました。

4ヶ月にわたって皆様にご協力いただいた冬の道路情報提供実験も、3月31日で無事終了いたしました。

今年は携帯電話も存分にご活用いただき、全投稿の2/3が携帯からの投稿で、そのうちの8割の投稿が添付画像有りの情報でした。後志を訪れる皆様へ、多数の、わかりやすい情報を提供していただきました。

今後もiネット上に「道路情報」のシステムは継続して設置いたしますので、冬期に限らずこれからもぜひ、台風等災害時の道路情報や道路に関するお知らせや注意事項など、リアルタイムできめ細やかな情報の提供をお願い申し上げます。

しりべしiシステム事業運営部会

事務局：後志観光連盟

北海道後志支庁商工労働観光課内

連絡先：0136-23-1365 (直通)



私が選んだ'後志のオススメ'

しりべしもの

後志エリアの情報誌「BYWAY後志」

後志地域が持つ「奥行き」と「発見の可能性」を発信するマガジンスไตล์の「BYWAY後志(バイウェイシリベシ)」上巻が07年1月31日に発行されました。『しりべしiネット』も編集協力しており、ジュジュで特集された特産品や取組みの紹介が掲載されています！その他、今までしりべしシステム事業にもご協力いただいた皆様の情報も満載。全道の主要書店、後志管内の「道の駅」で手に入る他、送料無料でお送りする購読会員の申し込みも受けているそうです。お買い求めの方は、下記あてにお問合せください。



[購読申込み先]
「BYWAY後志」発行委員会事務局
〒060-0005 札幌市中央区北5条西6丁目
札幌センタービル13階
はまなす財団 TEL:011-205-5011
担当 事業部 藤田 洋行

[電子メールでのお申込み]
メールアドレス：fujita@hamanasu.or.jp

しりべしiシステム事業運営部会
部会長 小川原格氏ご推薦！

今までになかった視点で後志が紹介されています。下巻は4月中旬に発売！地域スタッフも寄稿しています！！



あなたがオススメする商品を教えてください。この商品のこんなところがすごい！後志ならではの情報をお待ちしています。

しりべしまるごとi事典担当 河村まで reiko@live-kk.co.jp